

調査報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

訪問調査日 調査実施の時間	平成 20 年11 月 19 日 開始10時 分 ~ 終了15 時30 分
訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム みさき _____ (鹿児島県)
評価調査員の氏名	氏 名 _____ 腰 高行
	氏 名 _____ 藤田 泰洋
事業所側対応者	職 名 _____ 管理者 計画作成担当者
	氏 名 _____ 大村信久 向井利江
	ヒアリングを行った職員数 (4)人

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 調査報告概要表

作成日 2008年11月19日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4699300010号
法人名	有限会社 ソフィア・インターナショナル
事業所名	グループホーム みさき
所在地	〒891-8327 鹿児島県大島郡伊仙町犬田布字ケマシ475番地1 (電話) 0997-81-9060

評価機関名	NPO法人 自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	〒891-0102 鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成20年11月19日	調査確定日	平成20年12月20日

【情報提供票より】(平成20年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年9月29日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 13 人, 非常勤 3 人, 常勤換算	14.4 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	1階建ての	階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	10,000 円	その他の経費(月額)	200 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(50,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	0 名	要介護2	6 名		
要介護3	10 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.8 歳	最低	64 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	伊仙クリニック 上木歯科診療所
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは岬の入り口近くの広い敷地に建てられている。島にある同法人系列ホームの一つである。管理者は管理業務に専念しており、また退居者の中で3名が自宅復帰されているのも特筆できる。職員は家にいる時と変わらない生活を利用者に提供しようと取り組んでおり、開放的で明るく楽しくなるように支援している。家族の訪問も多く、家族からも信頼されているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 介護計画の見直しについては、モニタリングの記録がされ改善している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員全員に内容を回覧し話し合っ、自己評価に取り組んでいる。日ごろ気付かない点について、見直しの機会としてとらえている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 会議の主な内容は、ホームからの報告や委員からの情報提供・地域交流の助言などである。家族からの桜の苗木の提供の意見やふれあい給食の提案など、利用者支援の向上に活かされている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) ホームにアンケート用紙を置いて、匿名で意見を書けるようにしている。運営推進会議や家族会での意見など、対応して支援に反映している。また日頃から家族とお茶を飲みながら話をして、意見や要望を聞くようにしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の豊年まつりの踊りボランティアの訪問や、地域や小学校の行事に参加したりして地域との交流がある。周辺の掃除や近所とよく連絡をとってつきあいに努めている。また教員の福祉体験の受け入れや小学生と給食を一緒に食べるふれあい給食などの取り組みをしている。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	住み慣れた徳之島で、その人らしく暮らし続けることを支援することを目指したホーム独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝、職員で唱和し確認している。傾聴に努め、できるだけ家にいる時と変わらない、本人本位の支援に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の豊年まつりの踊りボランティアが訪問したり、地域や小学校の行事に参加したりして地域との交流がある。周辺の掃除や近所とよく連絡をとってつきあいに努めている。また、教員の福祉体験の受け入れ、小学生と給食を食べるふれあい給食などの取り組みをしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、職員全員に回覧して話し合って取り組んでいる。日ごろ気付かない点について、見直しの機会としてとらえている。外部評価の改善点は、検討してケアプランの見直しなど改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、ホームからの報告や委員からの情報提供・地域交流の助言などが出されている。家族から桜苗木の提供の意見やふれあい給食の提案など、利用者支援の向上に活かされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月管理者が業務報告などで町担当者と会っており、研修の情報や入居者の金銭管理などの相談をするなど連携を取っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、各家族あてに個人別カラー写真入りで、近況報告をしている。金銭管理については、定期的に家族に報告して確認してもらっている。職員の異動は家族に文書で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アンケート用紙を置いて、匿名で意見を書けるようにしている。運営推進会議や家族会での意見は、直ちに対応して支援に反映している。また日頃から家族とお茶を飲みながら、話をするようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が変わることは利用者に影響があることから、離職も異動もほとんどない。利用者とは適正なコミュニケーションを保ち、馴染みの関係を保っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	感染症や人権などの外部研修には、できるだけ参加している。法人の研修会には夜勤者以外、全員参加となっている。ホームヘルパー資格取得の支援もしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホーム間で見学などの職員の交流があり、支援の参考としている。地区のグループホーム研修会にも参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にホームを見学してもらい、本人や家族にホームを確認してもらっている。茶菓子の提供やお話などで慣れるように工夫している。知り合いが多く、自然に馴染んでいる。落ち着くまで自宅に連れて行ったりすることもある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は親孝行の気持ちや先輩から教えてもらうなどの気持ちで従事している。また一緒に過ごしながらかの行事やしきたりなどを学びながら支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、細やかに聴く体制をとりながら、一人ひとりの意向の把握に努め、見守り・工夫して本人本位に支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人と家族に確認しながら介護支援専門員がアセスメントをしている。それを基に担当者会議で職員の意見を聞きながら介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎に職員のケアチェックでモニタリングしている。更新期や入院などの変化があるときは、全体を見直して介護計画の変更を実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体法人が経営する病院と医療面での連携がある。通院支援や墓参り・理美容院への外出支援等や外泊支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの利用者が協力医療機関の医師が主治医になっている。他の主治医についても適切な受診支援をしており、ともに月2回の受診体制で受診結果も家族に報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期について、ホームの技量の範囲で対応することとし、最終的には主治医の判断とすることを家族と話し合っている。職員も共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	朝礼で本人がやっていることを否定しないなどを注意合っている。言葉使いやさりげない対応について指導している。また、個人情報の取り扱いについては、入職時に誓約書を取り適正な保護に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や就寝など暮らしは自由である。利用者に個別の対応をするため、ユニットごとに生活の仕方が異なっている状況である。職員側の業務の都合でケアに影響しないように注意している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の趣向を聞いて食事を提供している。利用者も職員と一緒に食材を取りにいたり作ったりしている。ユニットごとに献立が別々で職員と一緒に食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日のほか、希望があれば夜も対応している。入浴時間は自由で、入浴が好きなひとが多く、二人で入る入居者もいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	台所での洗い物や雑巾縫い等の家事の一部を担当するなど役割がある。張り絵やジグソーパズル・カラオケなどの楽しみごとや散歩・ドライブ・買い物等で気晴らしをしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日散歩をしている。小グループで近くの花畑や買い物に行ったりしている。車いすの入居者も車いす対応車で支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は自由に開放している。行動に注意して見守りをしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の防火・避難訓練を消防署の指導で地区の区長も参加して実施している。台風時には食料や飲料水・懐中電灯・水洗トイレ用の水も備蓄している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立の栄養バランスについて、栄養士に指導を受けている。食事量や水分摂取量もチェックしている。調理法や補助食品などの工夫もしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや食堂の音や採光の調整をして、入居者が落ち着いて過ごせるようにしている。また共用空間はよく清掃され、室温の管理や換気もこまめにしており、入居者が居ごちよく過ごせるようになっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	身体の障害に応じて介護用のベッドを用意してある。また持ち込みの家具を使ったり、仏壇などを置いたりして個別の居室となっている。		